



発行日 = 2006年6月25日 発行人 = 面出 薫 編集 = 田沼 彩子・矢野 大輔・小川 祐樹  
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内 (田沼 彩子)  
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

# 照明探偵団通信

vol.25 Shomei Tanteidan Tsu-shin

国内調査レポート 1  
京都 魅力的な暗さと  
影のパリエーション (2/15-17)

国内調査レポート 2  
水と橋と光の風景  
in 日本橋川&隅田川 (6/7)

照明探偵団倶楽部活動 1  
第 28 回街歩き  
探偵団日本橋川・神田川に挑む!! (3/20)

照明探偵団倶楽部活動 2  
第 31 回研究会サロン (4/10)

The world of Tokyo (5/27)

海外調査レポート  
Light+Building2006  
ドイツ / フランクフルト  
/ ミュンヘン調査報告



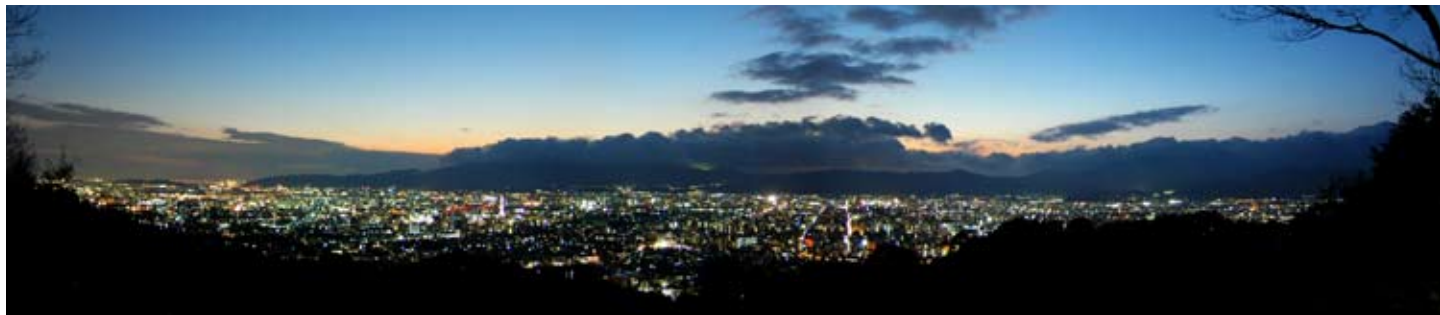
京都の裏路地

# 京都 魅力的な暗さと影のバリエーション

2006.2.15-17

村岡 桃子

京都は風水に基づく都市計画のなされた古都であり、基盤の目状の通り、町家空間から派生した路地などのユニークな空間的条件を備えた都市です。日本有数の観光都市でもあり、大文字焼き、花灯路など光のイベントも数多く催されます。都市の空間的特長に寄り添う、京都ならではの光を見つけないで京都へ。



將軍塚から京都市内を一望

## ■將軍塚から

京都の夜景スポットとして名高い將軍塚。京都市東山区位置する將軍塚からは、三方を山に囲まれた京都を街の東側から見下ろすことができます。

2日続いた雨が上がり、冬の澄んだ空気の中ゆったりと沈む太陽は、京都を囲む山々をシルエットとして浮かび上がらせ、やがてその山々の影に吞まれるように街中のさまざまなヴォリュームも影をまといます。そして京都駅越しに見える大阪は、遠方からでも賑わいの感じられるような光量で遠くの夜空を照らします。

日没後、京都市内と周囲の山々とのエッジが光によって明らかになります。日本国内の都市ではなかなか見ることのできない夜景だといえるのではないのでしょうか。

## ■京都タワー

京都駅の北に位置する京都タワー。高さは131m。街の中心から京都を一望することができます。

タワー自身の構造体が展望台のどの位置からも目に入ってしまったら、インテリアが放つ光と展望スペースが非常に近かったりと、夜景を望む環境としてコンディションがよいとはいえませんが、やはり京都をぐるっと340度ほど見渡すことのできるビューは興味深いものでした。

景観保存の条例により、屋外広告、特にビルのトップの広告灯に規制がかけられているために、建物のボリュームは面する通りやそれぞれの地上に近いレベルからの光になめ上げられ、影の群れとして都市を浮かび上がらせません。東京の高所からの夜景と比べると、とても静かな夜景だといえることができます。

また、京都駅が出来た時に、この大きな壁のようなボリュームで京都の開発の南北格差がより助長されると議論を呼んだと記憶していますが、京都タワーから見る風景では、発展が送れているとその当時言われていた南側の方が明るく、京都市内を内包する北側の方が光量が少ない状況でした。京都の南北それぞれに配置されている都市機能と光との関係が気になるころだと思いつつ、おしろいの粉のように真っ白い京都タワーを後にしました。



暗さへの免疫を感じさせる



京都タワーから



鴨川沿いー昼景・夜景ー  
〈四条大橋側〉



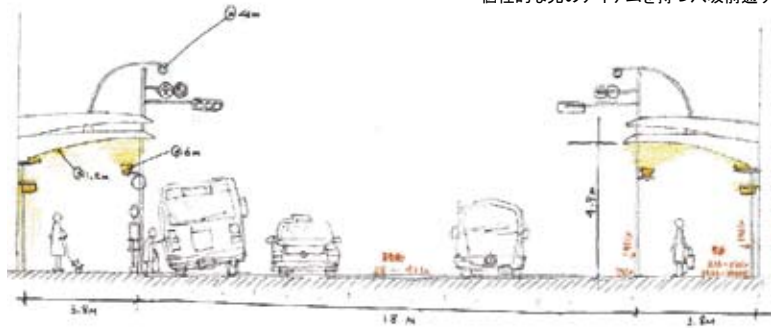
個性的な光のアイテムを持つ八坂前通り

### ■ストリート

繁華街の中心である四条河原町の交差点を基点として、四条通と河原町通、四条通の東側延長上にある八坂神社前の通り（祇園エリア）においてストリート調査を行いました。

四条通と河原町通りは、ポール灯やアーケードの柱についているブラケット状の光のアクセサリこそ微妙に違えど、光の環境はほぼ同じねらいで設計されていました。アーケードはサイン等も配置位置が一定で、美観的に優れてるとは言いかねますが、非常に情報が整理されており、明快な印象を受けました。また、アーケードによってどんなファサードも途中でさえぎられてしまうため、ルイ・ヴィトン等のファサードもほかの商店と均質な印象になってしまい、ファサード建築は育ちにくい都市かもしれないと感じました。

一番プロデュースがうまいのは祇園エリアに位置する八坂神社前の通りでした。赤色と白色の光のアイテムを効果的に使い、周囲の大きな通りとは異なった雰囲気を作り出していました。そしてその通りは魅力的な路地空間への入り口でもありました。



四条河原町交差点よりみた河原町通りの断面

### ■路地

京都には路地空間が多く見られます。細長い幅の狭い空間に光のアイテムが無造作に点在し、それらが生み出す明暗のリズム、コントラストは、人を引き寄せさせる魅力的な空間を作り出します。自らが空間の手前から奥に移動する時に体験する明暗のシーケンスは、そのまま都市からよりプライベートな空間への移動という心理的なシーケンスとリンクして、なんとも高揚感のある空間体験でした。また市の中心部で見られるこのような明暗のコントラストを許容する背景を探りに、住宅地の路地も探索に行きましたが、住宅街でも細長い暗い空間の奥にぼつんと光がある、という風景に何度も遭遇しました。

### ■祇園エリア

伝統建築のファサードが保たれているエリアは、光環境、演出に心を割いている様子がうかがえました。しかし、高瀬橋周辺では、観光のピークのお花見シーズンのために桜のライトアップ用のために設置されている照明が季節はずれの2月にも点灯しており、一帯のしとやかな雰囲気グレアを撒き散らしている状況で非常に残念な印象を持ちました。

エリア全体において、照らす光があるのではなく、何かを透過する光、隙間やすだれから漏れる光が空間を優しく満たし、心がとても落ち着く環境を創り出していました。

また、高瀬川付近では、障子や窓から舞妓さんのシルエットが見えたりと、紋切り型ではありませんが、とても京都らしい風景に出会うことも出来ました。

### ■鴨川沿い

鴨川、四条大橋から三条までの昼夜の連続立面を撮影しました。夏には川沿いに床が出て、夕涼みをする人たちでにぎわう鴨川沿いも2月の風景は閑散としています。先斗町からの明かりもちろほら見える程度で、賑わいというよりも落ち着いた水景でした。オフシーズンとはいえど、水に映りこむ光を近いところからパノラマで見ることのできる風景はとても美しく、一番にぎわう季節にはさぞかし素晴らしい風景が現れるのだろうなと思いました。(村岡 桃子)



雨上がりの花見小路



高瀬橋



鴨川沿い-昼景・夜景-  
＜三条大橋側＞

# 水と橋と光の風景 in 日本橋川 & 隅田川

2006.6.7

平岩 洋介+久保 隆文+谷川 千晶

歴史ある日本橋を遮るように通っている高速道路が撤去され、高速道路が移設されるという話がある。戦後の高度経済成長の中、景観などは考慮に入れず建設された高架ではあるが、東京の歴史の一つとして日本橋川を中心に現況の光環境の調査を行った。また、高架に隠された日本橋川とは対照に、川幅が広く開放された隅田川には、各々の存在を主張するかのように多種多様な橋が架かっている。それらの夜の表情と周辺環境について調査を行った。

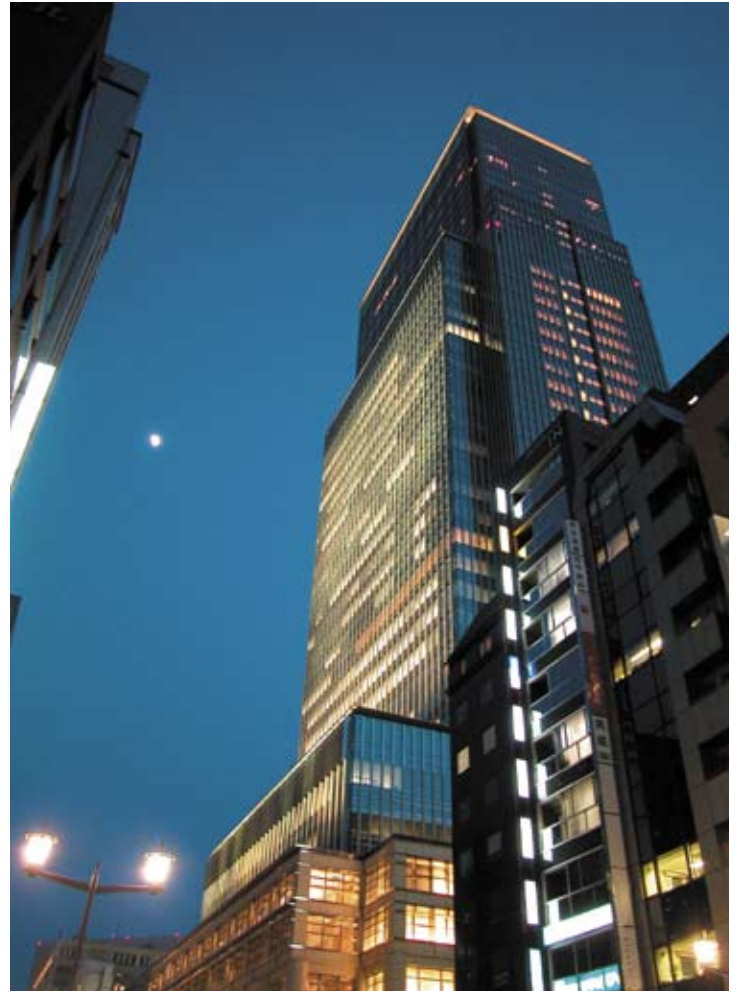
## ■伝統と開発の両立を目指す日本橋の街並み

昔の建築基準法のもとで高さを31mに制限された建物が多い日本橋エリアのなかで、2005年7月に竣工した日本橋三井タワーは初となる超高層ビルである。日本橋三井タワーは31mラインより上の部分をセットバックすることにより、古きよき街並みとの調和が図られるように建てられている。日が落ちると三井タワーの繊細に織り上げられたファサードが光を受け、上品に光り始める。日本橋を訪れる前は高層の建物が少ない日本橋の街に超高層の三井タワーが浮いてみえるのではないだろうかと思っていたのだが、日本橋の街を眺めると三井タワーの頂部の水平に光るラインが、日本橋エリアの夜景のスカイラインを締めて、歴史ある日本橋の街の新たなランドマーク的存在として日本橋の風景に馴染んでいた。

## ■日本橋を中心とした風景を取り戻す

現在、日本橋の上空には高度経済成長の象徴とも言える高速道路が架かっている。以前より高架の下にすっかり陰を潜めてしまった名橋「日本橋」の景観問題がよく取り上げられていて、高速道路の移設、地下化が検討されているという話があるが、問題になっている高架には日本橋を照らす、そして高架の印象を変える多種多様な照明がなされている。まず、高架の印象を軽く見せるためか、高架の裏側には3本のスリットが設けられていて、そのスリットの両側には蛍光灯で間接照明が行われていて白く発光している。そのスリットには他にスポットライトも設けられていて、道路照明、歩道照明の役割をしている。高速の橋桁の脇にはボックスに内蔵された橋のライトアップ用のスポットライト、欄干の上に建つ麒麟をあしらった照明用スポットライトが設置されている。そのスポットライトにはグレアを避けるためにルーバーも取り付けられていて、非常に気を遣ってライトアップされている。高架の下と言えば何か潜んでいそうな暗い印象があるが、高架のないところと照度を比較しても日本橋の上は全く暗い印象はない。しかし、残念ながらあまりに多くのライトアップがなされていて、どこをみせたいのかという意図がぼやけてしまっている印象を受けた。

橋から一段降りたところから日本橋を眺めると石造りのアーチ式の日本橋がライトアップされているのだが、日本橋川の両脇に建つ建物は日



中央通りと三井タワー

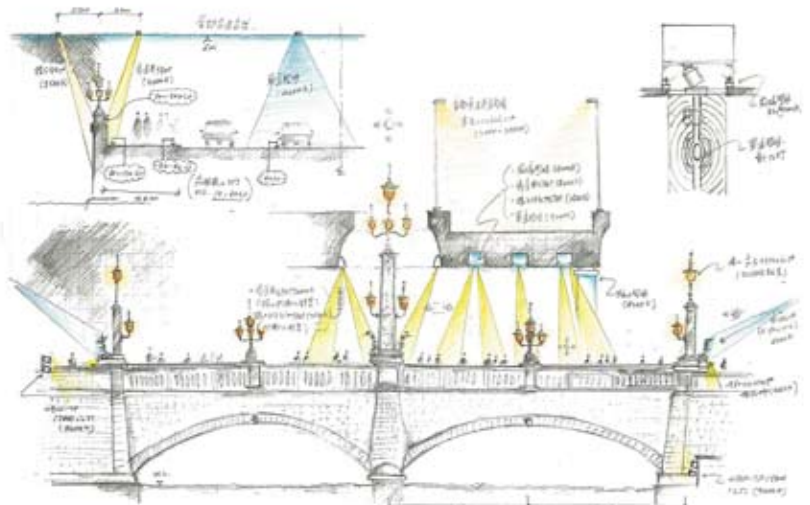
本橋川に背を向けていて、日本橋川に架かる隣の橋から日本橋のライトアップを見てもやはり高架の橋脚が目線を遮っているため日本橋のライトアップの全貌を見ることはできない。現在、日本橋の風景を再生するためにさまざまなアイデアが検討されているが、まずは折角、気を遣ってライトアップしている日本橋を見る視点を作るためにも、川沿いに緑ある歩行者専用道路を作るなど、川を中心とした風景を取り戻すことが必要なのではないか。そして川を中心とした風景を取り戻すことはゆっくりと時間の流れる風景の復活にも通じるのではないか。(谷川 千晶)



日本橋川に架かる他の橋より日本橋を望む



日本橋の上空に架かる高速道路をバックに日本橋を望む



日本橋照明手法スケッチ

## ■隅田川に架かる橋

隅田川にはトラス橋、アーチ橋、斜張橋など多種多様な橋が架かる。川沿いには隅田川テラスと呼ばれる遊歩道があり、幾多の橋と川沿いの周辺環境を回遊できる。今回は最も河口に近い勝鬨橋から中央大橋、永代橋まで隅田川テラスを歩いて調査を行った。

勝鬨橋、永代橋は同様な形状をしたアーチ橋であるため、いずれも似たような照明手法が採用されている。それぞれグリーン及びブルーの蛍光灯によりアーチが強調され、その下にはアクセントにブルー及びオレンジ色をした光のジュエリーが輝く。それぞれの橋を遊歩道から眺めると、川に映り込む光が水の流れとともにゆらゆらと揺らめき、夜に散歩する人々の目を楽しませている様にも感じられる。昼は重量感を感じる橋ではあるが、夜には色とりどりの光のみが川の上に浮かび上がっていた。



永代橋と水辺に映る光

中央大橋は平成5年に完成した隅田川の中でも最も新しい橋であり、主塔の形が美しい斜張橋が採用されている。この橋は隅田川と晴海運河が分岐する地点に位置しているため、周囲からの見通しが良く、街のランドマークとなっている。夜には主塔が白とオレンジの光でライトアップされ、周囲の暗い街角から巨大なタワーが窺える。主塔からの吊りワイヤーは白いタワーを浮かせ上がらせるためか黒色に塗装されていた。橋上の歩道はポール灯が設置され、通行には十分な13～30lx程度の照度が確保されている。

隅田川には各々の美しさを競い合うかのように、色とりどりにライトアップされた橋が見物できる。しかし、それ以外にも隅田川に合流する亀島川、日本橋川においてもライトアップされた「癒し系？」の橋を発見した。いずれも隅田川の合流点に位置し、南高橋、豊海橋という名称の橋である。そこでは色温度の低い光で構成され、橋の構造体を照らした間接光など、通行者、ドライバーにやさしい照明手法が用いられていた。暗い夜道に安心感を与え、仕事で疲れた体、傷ついた心を癒してくれるかのようにも感じられる。



スーパー堤防より中央大橋を望む

## ■隅田川と堤防の光

隅田川沿いの遊歩道は、一部の場所でスーパー堤防事業と呼ばれる水辺に親しめる環境づくりが行われている。それに伴って遊歩道の光環境も整備され、堤防上部にあるポール灯により、歩道は4～16lxの照度が確保されている。しかし、明るさは確保されているものの、歩行者を快適に回遊させるような陰影は感じられず、対岸から見た水辺に映る光の景色は考慮されていない。また、勝鬨橋から少し上流の地点では、約300mの区間で未整備の遊歩道が続き、ポール灯等の灯具がまったく設けられていない区間もあった。照明の無い歩道では0.2～0.3lxと低い照度であり、夜の一人歩きは危険なようにも感じられる。隅田川は日本橋川と対照的に川辺を活かした環境づくりが行われているが、夜の光環境においても、生活者が水辺に親しみやすい配慮が必要であるように感じた。(久保 隆文)



照明の無い遊歩道と勝鬨橋



癒し系？



勝鬨橋の上にて